

医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業  
(戦略的国際共同研究プログラム SICORP)  
e-ASIA 共同研究プログラム ヘルスリサーチ領域 事後評価  
課題評価委員会における主な指摘事項

研究開発課題名	アジアの住血吸虫症撲滅を目指した革新的ポイント・オブ・ケア検査法ならびに環境汚染監視ツールの開発
研究開発代表者	迫 康仁
代表機関	旭川医科大学

○評価委員会コメント

成果・評価される点：

- フィリピンで患者や環境の住血吸虫 DNA 調査を実施し、感染リスクマップを作成することで、住血吸虫感染率と地域との関係を可視化し、感染源を監視する技術を確立した。
- 本研究により開発されたシリンジを用いて DNA を抽出する方法（DC-シリンジ法）、日本住血吸虫の遺伝子診断法（Sj-SHERLOCK）や抗体迅速検査等の高感度診断技術は、他の感染症対策への応用や国際展開への寄与が期待できる。
- 現地留学生の育成を含む日・豪・比の 3 国連携体制が構築され、フィリピンへの技術移転により継続研究可能な体制が構築された。

課題・改善点：

- 開発・検証を行った複数の診断技術について、各技術の間で感度や精度等の相関を検討する必要があり、成果の実用化や一部の検査法（LAMP, dPCR, CRISPR）の実装にはさらなる最適化や検証を要する。
- リスクマップの作成を含む研究目的の達成度は高いが、アジアでの公衆衛生における実装や政策応用に向けた戦略の具体化が望まれる。